

(1) 令和7年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

評価項目		自己評価	学校関係者評価	
1	<b>スクール・ポリシーに基づく活動</b> ①ホームページ、パンフレット等により、スクール・ポリシーを校外に発信する。 ②スクール・ポリシーを意識し、それに基づいて、教科、学年、分掌で教育活動を進める。 <b>【実践と自己評価】</b> ①中学入試の説明会ではアドミッションポリシーについて言及し周知を図った。各学年の学年だよりにおいてグラデュエーションポリシーは学年目標と関連付けて保護者に発信されている。②学年経営計画のグラデュエーションポリシーとの関連づけは2年目に入り、グラデュエーションポリシーを意識した教育活動がなされている。	A	A	ホームページやパンフレット、インスタグラムなどのSNSからの発信はわかりやすい。また、グラデュエーション・ポリシーや学年目標についても、学年だより等で丁寧に伝えられている。
	<b>宗教教育の充実・精神性の涵養</b> ①宗教の授業、宗教行事(全校ミサ、黙想会、錬成会等)、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことなど、これまでの伝統を大切にしつつ、現在の生徒の状況に合わせて丁寧に実施し、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 <b>【実践と自己評価】</b> ①②各学年、計画通りに宗教行事を実施した。中一：古川神父様による1日の修養会、中二：榎本神父様による2泊3日の錬成会、中三：関谷神父様による1日の黙想会、高1：山口神父様のご指導による2泊3日の研修会、高2：シスター延江による1日の黙想会、高3：西神父様による1日の黙想会を行った。宿泊を伴う宗教行事で互いに語り合い、聞きあう体験を経て、他者を尊重し理解しようとする姿勢が育ち、学年全体の連帯が育った。毎朝の祈り、聖歌を歌うことを大切にしている。加えて、中三沖縄体験学習時のガマや平和公園での祈り、高2研修旅行での広島、長崎での祈りにおいては日常の祈り以上に心の奥から祈る経験が出来た。	A	A	黙想会や研修旅行といった行事での経験に加え、毎朝のお祈りや聖歌、聖書の朗読など、日々の学校生活の中で丁寧な宗教教育と精神性の涵養が行われている。多感な時期にこうした豊かな時間を過ごせる環境があることは高く評価できる。
3	<b>学習指導の充実・学力の向上</b> ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③観点別評価の方法を研究し、生徒の学習意欲をより高めることに役立てる。 ④生徒個人持ちのiPadやChromebookなどの端末や他のICT機器を有効に活用し、主体的学習や、情報を収集整理し、発信する学習活動が行われるような授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修や、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座などへの積極的参加を促す。 <b>【実践と自己評価】</b> ①45分から50分授業に変更、協働的な学びの時間を確保し、学習内容の理解と質的な深化を図っている。教科研修共通テーマ「生徒の可能性を引き出す静岡雙葉における個別最適な学び、協働的な学びの実践」を掲げ、各教科で取り組んでいる。②中一に授業内容の確実な定着と主体的に学習する態度の育成を目的として「クルレタイム」を導入し、AIDリルによる「学び直し」を行った。③観点別評価は4年目となり、より適切な評価方法と学習意欲向上にむけての取り組みを教科内で共有し実践した。④今年度よりDX推進委員会を設置し従来のICT課の取り組みを引き継ぎ、ICT関連情報の収集と生徒の現状に即したICT機器活用推進に努めた。⑤海外研修に関してはイギリス研修に33名が参加、来年度のNZターム留学の希望者も多い。校内では中一・中二生徒36名参加のイングリッシュキャンプ(8/19・20)を実施した。英語検定試験にも積極的な取り組みがなされた。大学受験での英語検定試験活用の情報提供がなされたことにより高1での受験率は62.9%、高2では71.6%という高い数値であった。中学三年生は中一以来英検取得の取り組みを継続しており、準2級以上の合格者48名という結果であった。10月に高1で4大学による出張講義、11月には高2理系と高1希望生徒対象の早稲田大学出張講義が実施された。12月には高大連携により中三対象の上智大学出張講義が実施された。個人では「トビタテ留学japan」に3名の生徒が選出され、それぞれがテーマに沿って学びを深め視野を広げた。	A	A	各教科、6ヶ年の指導計画の元に学習指導がなされていること、また中学生の学習習慣の定着に向けた取り組みが具体的に実施されていることが学力の向上に繋がっている点が評価できる。先生方の熱心な指導のおかげで、生徒たちが目標を持って日々の学習に取り組んでいる様子が家庭でもみられる。今後も生徒一人ひとりの習熟度に応じた、きめ細やかなサポートを期待したい。外部の講師による講義等は、今後も積極的に取り入れ、生徒の学習意欲を支えて欲しい。
	<b>自律性、社会性及び公共心の育成(生徒指導)</b> ①基本的生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSを利用するときの注意点を、最新情報に基づいて学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 <b>【実践と自己評価】</b> ①「生活の記録」や手帳による時間管理を6学年すべてで実施し、基本的生活習慣と学習習慣の確立に向けた指導を行った。②スマートフォン、SNSの適切な利用に向けて、「ネット依存度チェック」を保護者と生徒に対して実施し、その分析結果報告を含めたネットアカデミー講演会(講師：齋上達氏)を7月17日に各学年オンライン配信で実施した。スマートフォンに関する習慣の改善は粘り強い指導が必要であり、各学年が継続的な指導を行った。③雙葉祭や各学年行事における実行委員会など、生徒の主体的な取り組みが行われた。高2では、「研修旅行を通じて自治意識を高める」という評価項目で「よくできた」「できた」と回答した生徒が90%以上であり、学年全体で自治意識をもって行事に取り組むことが出来た。④ボランティア活動に関しては、各クラスで支援先を決定する「Monthly Charity」の取り組みや12月のクリスマス訪問に加えて、各学年が校外ボランティアへの参加を推奨し、生徒も意欲的に参加した。釜ヶ崎フィールドワーク、神山復生病院訪問を実施した。	A	A	基本的生活習慣の定着や自立心、公共心の育成は、家庭教育に依存するところが多いが、学校での指導も、家庭と連携、協力して大切にしたい。SNSの利用に関するトラブルや、多感な時期特有の心の悩みなど、家庭だけでは見えにくい部分が増えている。学校と家庭がタイムリーに情報を共有しあえるような体制を、今後も維持・強化していただけると心強い。
5	<b>たくましく未来を切り拓く力の育成(進路指導)</b> ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修、様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試に関する最新情報を把握し、生徒・保護者に的確な進路情報を提供する。 ③中三～高2の「コース制」の取り組みと中一、中二の総合学習の時間をまとめて振り返り、探究的な学びが6ヶ年を見通したものとなるよう、全教員が主体的に関わり、内容を更に良いものにする。 <b>【実践と自己評価】</b> ①5月19日に、昨年に引き続きサウジアラビア大使をお招きし、国際教養コースの生徒との交流を実施した。今年は「EXPOサウジアラビアパビリオン」プロデューサーも来校されたことから、社会科フィールドワークでサウジアラビア館への特別招待を頂いた。「未来への志を育む」講演会では9月に劇作家平田オリザ氏を迎え、「対話」の重要性について深く考える機会を得た。講演後のワークショップには30名ほどの希望者が参加した。「芸術鑑賞教室」では雅楽師の東儀秀樹氏による雅楽と現代音楽が融合した演奏に触れた。②初年度であった「共通テスト」の分析及び入試傾向について職員会議で共有した。③中学の総合学習の時間の振り返りを行い4コースの総合学習における担当内容を検討し実施した。各コースともそれぞれ学外講師をお招きし、学びを深めた。	A	A	充実した学習指導だけでなく、生徒の進路実現に向けた様々な取り組みがなされていることを高く評価したい。日頃から生徒一人ひとりの希望や適性に寄り添った丁寧な進路指導を行っている。学外講師や様々な分野の方のお話を聞く機会により、探究心が育つ学習になっていると思う。
	<b>生命の安全確保</b> ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定し、防災備品の更なる充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に実行。 ④防災訓練は、様々な場合を想定してより実践的のものとなるように工夫し、生徒の防災意識と危機対応能力の向上を図る。 <b>【実践と自己評価】</b> ①総務課により防災マニュアルの見直しが進められ、3月にはマニュアルに基づいた避難訓練が実施された。②中一の防災用品については早期発注し、保管をした。今年度から衛生用品も学校防災備蓄として発注した。③校内施設点検は夏季休業中にグーグルフォームを用いたチェックシートで火元管理者が点検を行い、事務で入力内容を確認して要点検箇所をまとめ9月の雙葉祭後に管理職、主幹教諭、総務課、事務で点検を実施した。火元管理者に改善を促したのち、10月末に最終点検を行った。④夏休み明けの防災訓練では福岡市消防局の動画を視聴し、具体的な事例を確認することで危機対応力の向上を図った。中一・二総合的な学習の授業に防災教育を取り入れ、災害伝言ダイヤルの体験利用や防災ポーチ作成を行った。	B	A	定期的な避難訓練の実施や、緊急時の速やかな情報共有など生徒の安全を守るための体制がしっかりと構築されていると感じる。防災マニュアルについては、常に見直し、現状に則したものにしていける必要があるが、大規模災害に備え、耐震性の高い校舎、防災備品の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる体制が整っている。
<b>(学校側のまとめ)</b> スクール・ポリシー実施初年度だが、スクール・ポリシーに沿った学校経営、学年経営を進めるため、学年経営計画、教科の「6年雙葉プログラム」を作成し、教育活動等の改善・充実を図ることができた。宗教教育の充実・精神性の涵養、学習指導の充実・学力の向上、進路指導は、おおむね実行できた。生徒指導もおおむね実行できたが、スマートフォン、SNSの適切な使用については、まだまだ課題が残る。安全管理は、広域から生徒が通う本校では、細やかな配慮をしながら、引き続き向上に努める必要がある。		<b>(学校関係者評価委員会のまとめ)</b> 全体としてバランスが取れており、積極的に事業が進んでいると思う。宗教教育により、正しいこと美しいものを見方を養っていることは強みだと思ふ。学習指導、自律性等の育成はよくできている。SNSの利用に関するトラブルなどについて、学校と家庭がタイムリーに情報を共有しあえるような体制の維持・強化が望まれる。		